

子宮頸がん予防ワクチン（2価ワクチン：サーバリックス）説明書

接種にあたっては、この説明書をお読みになり、予防接種による効果や副反応、健康被害救済制度などよく理解し、かかりつけ医とご相談のうえ接種してください。

○ HPV ワクチン2価（サーバリックス）ワクチンの効果

1. 2価ワクチンは、子宮頸がんおよびその前がん病変の発症に関係している HPV16. 18 型の感染を予防するワクチンです。
2. 日本人の子宮頸がんの原因の 50～70%を占める 2種類(HPV16. 18 型)の HPV の感染を予防することができます。
3. 2価に含まれている HPV 型以外の感染およびこれらによる病変の発症予防の効果は期待できません。また、すでに HPV16. 18 型に感染している人に対して 2 価ワクチンを接種しても、ウイルスを排除したり、既に発症している HPV 関連の病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。

○ 2価（サーバリックス）ワクチンの副反応について

1. 2価ワクチン接種と関連性があると考えられた主な副反応は以下のとおりです。
 - ・ 頻度 10%以上：注射部位の痛み・発赤・腫れ・痒み、疲労、悪心（吐き気や胸やけ、胃がむかむかする）、嘔吐、下痢、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛
 - ・ 頻度 1～10%未満：発疹、蕁麻疹、注射部位のしこり、めまい、発熱
 - ・ 頻度 1%未満：注射部位の知覚異常、感覚鈍麻（しびれ感）、全身の脱力
 - ・ 頻度不明：四肢痛、失神、リンパ節の腫れ・痛み、ぶどう膜炎、角膜炎
2. まれに、アナフィラキシー反応やアナフィラキシー様反応（呼吸困難、目や唇のまわりの腫れなど）、ギラン・バレー症候群（手足に力が入りにくい、しびれなどを症状とする末梢神経の病気）、急性散在性脳脊髄炎（発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識の低下などを症状とする脳などの神経の病気）があらわれることがあります。このような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

○ 予防接種健康被害救済制度について

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。

HPV ワクチンに限らず、日本で承認されているすべてのワクチンについて、ワクチン接種によって医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、法律に基づく救済（医療費・障害年金等）の給付が受けられます。

○ 次の方は接種を受けないでください

1. 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃以上の場合）。
2. 重い急性疾患にかかっている方。
3. 2価ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって、過敏症（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）をおこしたことがある方。
4. その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

○ 次の方は接種前に医師にご相談ください。

1. 血小板減少症や凝固障害を有する方。
2. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある方。
3. 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方。
4. 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
5. 過去に免疫不全の診断がなされている方もしくは先天性免疫不全症と診断された近親者がいる方。
6. 2価ワクチン成分（詳しくは医師にお尋ねください）に対してアレルギーを呈するおそれのある方。
7. 腎臓に障害がある方。
8. 肝臓に障害がある方。
9. 妊婦あるいは妊娠している可能性がある方。
10. 授乳中の方。
11. 2価ワクチン以外のHPVワクチン接種を受けたことがある方。

○ 2価ワクチン接種後の注意点

1. 2価ワクチン接種後に、注射に対する恐怖、痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて、時に気を失うことがあります。接種後30分程度は安静にし、医師とすぐ連絡がとれるようにしておいてください。
2. 接種した部位が腫れたり、痛むことがあります。これは、体の中でウイルス感染を防御する仕組みが働いているために起こる症状で、通常は数日程度で治まります。
3. 接種後は、接種部位を清潔に保ち、接種当日は過度な運動をさけてください。
4. 接種した日に入浴しても問題ありません。ただし、体を洗うときに注射部位を強くこすらないようにしてください。
5. 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を行った医療機関などの医師に相談しましょう。
6. ワクチンを合計3回接種しますが、気になる症状が現れた場合は、それ以降の接種をやめることができます。
7. HPVワクチンを接種した後も、ワクチンでは予防できない型のHPVによる病変を早期発見し早期治療するために子宮頸がん検診の受診が必要です。20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受診しましょう。

○ 中学1年～高校1年相当の保護者で、接種に同伴しない方へ

これまで記載されている内容をよく読み、十分に理解し、納得された上でお子さんに接種するかを決めてください。保護者同伴せずに接種する場合は、「予診票」の（保護者が同伴しない場合）の面の質問事項及び、保護者自署欄に署名してください。（保護者の署名がない場合は、受けられません。）

【2価ワクチン（サーバリックス）の標準的な接種方法】

接種開始の年齢	接種回数	接種方法	一般的な接種スケジュール
小学6年生（12歳相当）～ 高校1年生（16歳相当）の女子	3回	筋肉内に接種	2回目を1回目の接種から1ヵ月後に接種。 3回目を1回目の接種から6ヵ月後に接種。

※原則3回とも同一ワクチンで接種すること。

問い合わせ：常滑市保健センター 電話：34-7000